神奈川技家研 会報

第86号
平成27年　9月　17日発行
神奈川県公立中学校教育研究会
技術・家庭科 研究部会

「関ブロ神奈川大会にむけて」

－５年後へ！始動の年に－

神奈川県公立中学校教育研究会
技術・家庭科部会 部会長　高浪 文隆

部会長を仰せつかりました横浜市立緑が丘中学校の高浪です。

本研究会は創設以来、数十年の歴史があり、多くの先生方のお力を得て、今日まで活動を継続してまいりました。

これまでの先生方の叡智の蓄積は、膨大なものであると推察いたします。本研究会は、その叡智を活用しながら、教科研究を活性化することだと考えております。

しかし、それは容易なことではありません。

日々の授業、生徒指導、部活動指導等、また、学年会、職員会議等さまざまな業務に携わっているみなさんが、教科の実践をまとめ、蓄積させることは相当な労力を必要とするのはいうまでもありません。

しかしまた、その蓄積こそ明日への学校教育の糧になることも先生方は十分承知されていることかと思います。

研究大会は、そのような先生方の膨大な叡智の蓄積を掘り起こし、集積する絶好の機会だと考えます。

みなさんの貴重な経験を生かすため、今年度より平成３２年度関ブロ神奈川大会に向けて、組織づくりを始動します。できたての組織は決して完成したものではありません。多くの先生方のご理解とご協力を得ながら、明日への教科の礎となるよう、みなさんの手で育てていっていただけることを願っております。

今年度もよろしくおねがいいたします。

「今、技術・家庭科教員に求められる役割」

神奈川県教育局支援部
子ども教育支援課　山﨑幸子

「初等中等教育における教育課程の基準等のあり方について」の諮問の概要から、技術・家庭科として、求められている役割を確認してみる。

趣旨には「何を教えるか」に加え「どのように学ぶか」が問われ、「どのような力が身に付いたか」という視点が重要とされている。まさに現行の学習指導要領の中で、我々が探り続けてきた課題である。

その「資質・能力の育成」「教育目標・内容の改善」「主体的・協働的に学ぶ学習」「学習評価の改善」においては、技術・家庭科の先生方が、既に社会的な背景とともに変化する子ども達の実態を踏まえ、日々工夫し創造した授業スタイルを模索されているところである。

限られた授業時数と校内での教科研究が成立しにくい教科性のなかで、その苦労は、いかばかりかと推察されると同時に、その工夫され創造された授業スタイルは、次の時代を見据えた素晴らしいものであると確信している。

成熟した社会の中で、少子高齢化社会への対策や度重なる災害などの今日的な課題を背景に『技術・家庭科』としての必要性は高まっているのにもかかわらず、環境構成が追いついていない現実。

私たちは、県技・家研を通して、現場の声を発信し、横の連携を一層深めることで、その打開策を見いだしていきたい。

文部科学省の「高大接続」改革による入試制度に関する答申のなかの「目指す未来の姿」の例に「アメリカの研究による予測として、2011年に小学校に入学した子どもの65％は、大学卒業時に今は存在していない職業に就く」と挙げられている。

この予測されている未来を見通し、限られた環境構成の中で、技術・家庭科教員が取り組んでおられる工夫し創造された授業力を、新たな学びのスタイルとして他教科に発信していく役割を、自信を持って担っていただきたいと願う。

各委員会の活動について

〈研究委員会〉

技術分野
委員長　計屋　秀樹
(座間市立東中学校)
副委員長　牧瀬　信幸
(平塚市立横内中学校)

家庭分野
委員長　江副　延子
(綾瀬市立綾瀬中学校)
副委員長　森田ひとみ
(秦野市立大根中学校)

各地域での研究成果を研究部会の方にお伝えしている研究収録の作成に関して毎年ご協力ありがとうございます。今年度、研究収録の書式等を統一してより活用しやすい研究収録になるように検討しておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

・各地区研究成果の収集と情報発信
・研究集録のまとめ
・県版学習ノートの資料のページの検討
・全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわへのスタッフ協力

〈フェア委員会〉

委員長　宇條　健
(茅ヶ崎市立鶴が台中学校)
副委員長　比留川　義弘
(大和市立光丘中学校)

今年度の「全国中学校創造ものづくりフェア in かながわ」は、藤沢市での開催となります。長後中学校を会場として準備・運営を行っていきます。県内の先生方には、運営スタッフとしてのご協力と、フェアへのより多くの作品の出品と生徒の参加をお願いいたします。

・県フェアの企画・運営
・関東フェアと全国フェアの運営スタッフとして参加

〈会報委員会〉

委員長　安田　ひとみ
(小田原市立城北中学校)
副委員長　角田　京子
(横浜市立港南中学校)

技術・家庭科研究会の事業計画、関ブロ山梨大会やものづくりフェアの様子などお伝えしていきます。

・会報８６号の発行
・関ブロ特集号
・会報８７号の発行

県内、県外の情報をお伝えします。今後の指導の参考にしていただければと思います。
よろしくお願いします。

〈調査 Web 委員会〉

委員長　細田　暁彦
(横須賀市立池上中学校)
副委員長　山田　幸太朗
(藤沢市立大庭中学校)

本年度もこれまで同様、調査活動に取り組みます。
前年度までの活動を引き継ぎつつ、質問内容等は先生方の負担をできるだけ考慮し、精選していければと考えています。例年、回答率があまり高くないのが現状です。公務ご多忙とは存じますが、ご協力お願いいたします。
とりまとめた調査結果についてはご覧いただき、教育活動の参考にしていただければ幸いです。

・神奈川県の技術・家庭科教育に関わる現状の調査・分析を行う。
・アンケートの質問事項の検討と集約
・集約されたアンケートの分析と考察
・全国中学生ものづくりフェア in かながわへ

2015年度各地区研究テーマ

		技術分野	家庭分野
横浜	鶴見	基礎基本の確実な定着を図る指導の工夫	
横浜	神奈川	生徒が主体的に学ぶ授業作り（生物育成・住まい）	
横浜	西	生徒の興味関心を引き出す教材の工夫	
横浜	中	学習評価の充実に向けて	
横浜	南	各校が抱える教科課題とその解決策を探る	
横浜	港南	学習評価の充実	
横浜	保土ヶ谷	生徒の意欲を引き出す授業・教材の工夫	
横浜	旭	「授業の充実に向けて」～生徒達の興味・関心を高める授業展開～	
横浜	磯子	ＩＣＴ機器の利用の現実	
横浜	金沢	アクティブラーニングを取り入れた授業の研究	
横浜	港北	生物育成の学習評価の研究	実習における評価題材の取り組みについて
横浜	緑	エネルギー変換の教材と評価について	個に応じた指導の充実に向けた研究
横浜	青葉	安全かつ効率的な授業を行うための課題	
横浜	都筑	学習評価の充実	
横浜	戸塚	「家族・家庭と子どもの成長」の指導の充実と授業実践について ～現状から見た家庭分野の教材研究～	
横浜	栄	評価の充実　～ルーブリックを用いた評価の実践～	
横浜	泉	３年生の授業時間数による現状　～よりよい方向性を目指して～	
横浜	瀬谷	工夫・創造における題材と評価・評定について	
川崎		自ら生活を工夫し創造する力と実践的な態度を育て、確かな学力の定着を図る学習指導と評価の研究 1. ３年間を見通した指導計画と評価計画の作成 2. 生徒一人一人の学ぶ意欲を向上させる指導法および評価の工夫改善 3. 実生活との関連を重視した題材の開発と実践 4. 各教科等及び小学校との連携を図った技術・家庭科の実践 ～学力の三つの要素をふまえて～	
横須賀		未来を展望し、生活を作る力を育てる技術・家庭科教育 ～思考のトレーニングと「つなぎ」を工夫した授業を通して～	
三浦		指導技術の向上と教材研究	
逗子		授業のユニバーサル化	
葉山		小中連携による授業研究	
鎌倉		信頼と妥当性のある評価　～ねらって育てる授業をめざして～	
茅ヶ崎		いきいきと学び、生活を主体的に営む力をはぐくむ指導の工夫	
寒川		学習意欲を高められる教材教具の工夫	工夫し、創造する能力を育成し、実生活に生かされる教材の工夫
藤沢		エネルギー変換に関する技術を適切に評価し、活用する能力と態度を育成する指導	課題解決能力育成を目指した授業づくり
厚木・愛甲		材料と加工に関する研究	生活を工夫し改善する能力と態度の育成 ～人とよりよく関わる能力の育成～
大和		教育課程研究会に向けての内容の検討	３学期制における指導内容の工夫
海老名		魅力あふれる教材・教具の研究	
座間		進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫	生活の自立に向けた基礎・基本の充実
綾瀬		教材開発と指導法・評価に関する研究	意欲を高める教材の開発
相模原		今後の社会で求められる技術・家庭科教育	
平塚		生徒の意欲を引き出す工夫	子どもの能力を引き出すための教材の研究と評価
中郡		ＩＣＴ機器を有効的に使った授業の工夫	３年間を見通した指導計画と学習指導の工夫
伊勢原		３年間を見通した指導計画、評価計画の検討と学習指導の工夫	３年間を見通した学習計画の作成及び学習指導と評価の工夫・改善
秦野		ガイダンスに関する研究	よりよい生活を創造する実践・体験的な学習指導の工夫
南足柄		小中連携教育の推進　～地産品を使用した指導の工夫～	
足柄上郡		学習指導要領のねらいを実現するための指導方法の工夫　～ＩＣＴ機器の活用～	
小田原・足柄下郡		ものづくりの領域の題材、教材および指導法の研究	社会の変化に対応するための技術や知識の定着と学習指導のあり方

神奈川県公立中学校教育研究会 技術・家庭科研究部会

平成 27 年度　事業計画

(No　月/日　開始時刻　内容　会場)

1. 4/14(火) 15:00 第1回事務局会　かながわ県民センター
2. 4/18(土) 14:00 全日中フェア運営委員会　東京都内
3. 5/11(月) 14:00 第2回事務局会　えびな市民活動センター
4. 5/28(木) 13:00 県技・家総会　えびな市民活動センター
5. 5/29(金) 14:00 関ブロ理事研修会　ホテルクラウンパレス甲府
6. 5/30(土) 13:00 全日中理事研修会　東京ヴォーグビル
7. 6/3(水) 15:00 第3回事務局会　かながわ県民センター
8. 6/12(金) 14:30 第1回常任合同委員会　かながわ県民センター
9. 6/26(金) 15:00 第4回事務局会　かながわ県民センター
10. 7/7(火) 14:30 第2回常任合同委員会　川崎市立川崎高校附属中学校
11. 8/1(土) 14:00 全日中フェア運営委員会　東京都内
12. 8/3(月) 13:00 第5回事務局会　藤沢市立長後中学校
13. 8/18(火) 9:00 夏季研修会　相模原市立大野南中学校
14. 8/22(土) 9:00 臨時事務局会　横浜市内
15. 8/23(土) 11:30 歴代部会長副部会長会　横浜市内
16. 9/17(木) 14:30 第3回常任合同委員会　ユニコムプラザ相模原
17. 9/29(火) 15:00 第6回事務局会　かながわ県民センター
18. 10/22(月) 13:00 第7回事務局会（予定）　藤沢市立長後中学校
19. 10/22(月) 14:30 県フェア運営委員会（予定）　藤沢市立長後中学校
20. 10/29(木)～30（金）
関東甲信越地区技術・家庭科研究大会　山梨大会　山梨県各地
21. 11/7(土)
全国中学生創造ものづくり教育フェア in かながわ
藤沢市立長後中学校
22. 11/11(木)～13（金）
全日本中学校技術・家庭科研究大会　三重大会
三重県内
23. 11/18(水) 14：30 第4回常任・合同委員会
24. 12/6(日)
第16回全国創造ものづくり教育フェア関東甲信越地区大会
群馬県渋川市
25. 12/25(金) 13:00 第8回事務局会　次年度フェア開催地区
26. 1/13(水) 15:00 第9回事務局会　未定
27. 1/23(土)～24(日)
第16回全国中学生創造ものづくり教育フェア　東京都内
28. 2/9(火) 14:30 第5回常任合同委員会　未定
29. 2/12(金) 13:00 関ブロ理事研修会（予定）　山梨県内
30. 2/13(土) 14:00 全日中フェア運営委員会(予定)　東京都内

第５４回関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会 山梨大会のご案内

1 研究主題

『未来社会を展望し、生活を創る力を育てる技術・家庭科教育』
～「思考のトレーニング」を取り入れた授業を通して～

2 期日　平成27年10月29日(木)～30日(金)
29日(木)　【全体会・講演会】
30日(金)　【授業公開・分科会】

3 会場

〔第1分科会〕「A 材料と加工に関する技術」
甲斐市立竜王北中学校
〔第2分科会〕「B エネルギー変換に関する技術」
韮崎市立韮崎東中学校
〔第3分科会〕「C 生物育成に関する技術」
山梨市立山梨南中学校
〔第4分科会〕「D 情報に関する技術」
甲府市立西中学校
〔第5分科会〕「A 家族・家庭とこどもの成長」
甲府市立富竹中学校
〔第6分科会〕「B 食生活と自立」
甲斐市立竜王北中学校
〔第7分科会〕「C 衣生活・住生活と自立」
山梨市立山梨北中学校
〔第8分科会〕「D 身近な消費生活と環境」
都留市立都留第一中学校

4 主催　全日本中学校技術・家庭科研究会
関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会
山梨県中学校技術・家庭科教育部会

5 日程

10月29日（木）
12:00～13:00　全体会受付
13:00～13:40　開会式
14:00～14:50　研究発表・研究協議
15:00～15:50　指導講評
16:00～16:40　記念講演
16:40～17:00　閉会行事

10月30日（金）
9:00～9:30　受付
9:30～10:20　公開授業
10:40～11:00　開会式
11:00～12:00　提案発表１・研究協議１
12:00～12:20　指導講評
12:20～13:20　昼食・休憩
13:20～14:20　提案発表２・研究協議２
14:20～14:50　指導講評
14:50～15:20　閉会式

6 大会参加費

大会参加費(資料代)　４，０００円
昼食代　(希望者)　１，０００円